無期限に続きます、我が家のささやかな交通安全キャンペーン

★輝いてます

井上優子（ゆうこ）さん（里町）

全日本交通安全協会主催「交通安全ファミリー作文コンクール」で内閣官房長官賞を受賞。

※２月14日㈯に、文化センターで行われる安城市交通安全市民大会で、受賞した作文を井上さんが朗読する予定です。

「子どもが、交通安全に気をつけようねっていう意味で描くんだよ」
「じゃあ、大人は気をつけなくてもいいの？」

小学校２年生になる長男に、宿題だった交通安全ポスターを描く理由を説明すると、不思議そうな顔をして、こう聞き返してきたんです。確かに、交通事故に注意が必要なのは大人も同じ。大人も交通安全について考えなければいけないはずです。そんなとき、偶然、大人向けの作文募集があることを知り、自分自身について問い直すよい機会かなと思い、とても軽い気持ちで、今回、応募してみました。

母であるとともに、養護教諭として、小学校の保健室で、子どもの命を守りはぐくむ仕事をさせていただいています。そのため、病気や事故などで次世代を担う大切な子どもたちの命が奪われることがあってはいけないと、日ごろから、強く感じています。ただ、いつも一緒にいるわけにはいきません。やがては巣立っていく子どもたちですので、自分の身は自分で守るという意識を育てるしかないんですよね。

我が家で行っていることと言えば、道路への飛び出し防止に気をつける、出かけるときは交通安全の声をかけ合う、機会あるごとに家族みんなで交通安全の話をするなど、どれもささやかで、平凡なことばかりです。特別なことは何一つありません。でも、それを繰り返すことで、子どもたちの交通安全に対する意識が高まっていくのではないかと思います。そして、毎朝、通学路に立ってくださったり、保育園、学校、地域できめ細かな安全指導をしていただいたりするなど、自分たちを見守っていてくれる大人がたくさんいるということを気づかせていきたいと思います。

「こんな賞をいただいたからには、わたしたちが事故に遭うわけにはいかないね」「自分の命は自分だけのものじゃないんだよね」。家族から、ふと出たこれらの言葉に、今回の作文を書いた一番の意義があったのかもしれません。

ぴーえす…

職場の上司
平澤盛久（もりひさ）先生
（作野小学校校長）

３人の子どもの母親として、また、保健室を担う養護教諭として、子どもたちや職員・保護者から厚い信頼を得ている素敵な女性です。

これからも、子どもたちをやさしく見守ってあげてください。